



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2021年2月10日

上場会社名 ブティックス株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9272 URL https://btix.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 新村 祐三  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理本部管掌 (氏名) 速水 健史 (TEL) 03(6303)9431  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の業績 (2020年4月1日~2020年12月31日)

#### (1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	602	△22.3	△45	—	△34	—	△23	—
2020年3月期第3四半期	774	△13.5	△88	—	△87	—	△65	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△9.40	—
2020年3月期第3四半期	△26.73	—

(注) 2020年3月期第3四半期及び2021年3月期第3四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益においては、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第3四半期	1,577	714	45.1
2020年3月期	1,258	809	63.9

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 711百万円 2020年3月期 803百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2021年3月期の業績予想 (2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,139	△16.2	81	△56.7	91	△51.7	61	△53.0	24.64

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期3Q	2,538,100株	2020年3月期	2,513,100株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	40,164株	2020年3月期	30株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期3Q	2,494,960株	2020年3月期3Q	2,452,868株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 6「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	5
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	6
2. 四半期財務諸表及び主な注記 .....	7
(1) 四半期貸借対照表 .....	7
(2) 四半期損益計算書 .....	8
第3四半期累計期間 .....	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(追加情報) .....	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(セグメント情報等) .....	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に伴い、経済活動と個人消費が停滞し、景気が急速に悪化しました。政府の各種政策や移動制限、活動制限も段階的に解除されたことにより、各種指標動向も下げ止まりつつありますが、冬の到来によって感染者が増加に転じており、経済活動と感染対策の双方に注力しなければならない厳しい状況が続いております。

当社が主に事業を行う介護業界においては、異業種からの新規参入による競争の激化や人材採用難の状況が継続していることに加え、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、全体として厳しい状況が続いております。この結果、介護事業所の再編が加速しており、M&Aによる事業承継への需要が高まっている状況にあります。また、我が国の高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は年々上昇し、介護サービスの需要が拡大していることを背景として、介護高齢者マーケットへの参入意欲は引き続き旺盛であります。

このような環境のもと、当社は商談型展示会を開催することによって、単体事業としても収益を上げながら、来場者である介護事業者と出展社である各種サプライヤー（\*1）、双方の決裁権限者の情報並びに業界特有の課題・ニーズに直接アクセスできる利点を活かし、M&A仲介を含む様々なサービスを提供していく独自のビジネスモデルを展開しております。今後も、商談型展示会の開催を入口に、様々な課題・ニーズに応じた新サービスを開発し、介護業界におけるマッチング・プラットフォームとしての役割を確立していく方針であります。

当第3四半期累計期間においては、商談型展示会とM&A仲介サービスを主力事業として、これらの育成に努めております。商談型展示会事業につきましては、「CareTEX（\*2）」と商品ジャンル特化型展示会商談会「CareTEX One」の開催エリア拡大を図っており、東京都、大阪府、福岡県、宮城県、愛知県、神奈川県、全国の合計6エリアでの開催に向け、来場者及び出展社への販促活動を行ってまいりました。展示会の開催につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、4月から8月に予定していた展示会を第4四半期に延期し、9月より開催を再開しております。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響を受け営業活動が著しく制限されている介護事業者と介護関連サプライヤーに新たな商談・マッチング機会を提供するため、7月より商談型オンライン展示会「CareTEX365 オンライン」を開始しております。

また、M&A仲介事業においては、急増する介護事業者のM&Aニーズに対応すべく、M&Aコンサルタントの教育体制の整備を概ね完了させるとともに、M&Aコンサルタントの採用を継続し、案件の成約に注力してまいりました。

さらに、新型コロナウイルス感染症を契機に社会・ビジネス環境が大きく変容することを踏まえ、中長期的に業績を拡大するための追加投資を実施いたしました。商談型展示会事業においてはオンライン展示会プラットフォームの自社開発を実施し、M&A仲介事業においてはM&Aコンサルタントを大幅に増員するための採用活動を実施しておりますが、いずれも計画どおり順調に進捗しております。

以上の結果、当第3四半期会計期間（3カ月間）の経営成績は、売上高は293,246千円（前年同四半期比3.8%増）となり、営業利益は53,321千円（前年同四半期は4,831千円の損失）、経常利益は54,161千円（前年同四半期は3,078千円の損失）、四半期純利益は37,362千円（前年同四半期は5,255千円の損失）となりました。

また、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高は602,174千円（前年同四半期比22.3%減）となり、営業損失は45,680千円（前年同四半期は88,577千円の損失）、経常損失は34,358千円（前年同四半期は87,041千円の損失）、四半期純損失は23,460千円（前年同四半期は65,557千円の損失）となりました。

第3四半期会計期間（3カ月間）の経営成績

（単位：千円）

	前第3四半期 会計期間	当第3四半期 会計期間	増減額	増減率
売上高	282,624	293,246	+10,622	+3.8%
営業利益又は 損失（△）	△4,831	53,321	+58,152	—
経常利益又は 損失（△）	△3,078	54,161	+57,240	—
四半期純利益又は 純損失（△）	△5,255	37,362	+42,618	—

なお、当社が運営しているサービスのうち、商談型展示会事業につきましては、売上高及び営業利益の計上が展示会開催月に偏重します。特に、当事業年度においては、当初、4月から8月に予定していた商談型展示会の開催を、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、第4四半期会計期間に延期したため、当第3四半期累計期間の売上高及び営業利益はともに低い水準にとどまり、営業損失の計上を余儀なくされております。

当第3四半期累計期間における各セグメントの概況は、以下のとおりであります。なお、第1四半期会計期間より、報告セグメントにつきまして、「BtoB事業」を「商談型展示会事業」及び「M&A仲介事業」の2区分に変更しております。また、報告セグメントに含まれていた「BtoC事業」及び「新規事業」につきましては、「その他」の区分に変更しております。なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報は、当第3四半期累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。詳細は、「2. 四半期財務諸表及び主な注記（3）四半期財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照ください。

(イ) 商談型展示会事業

商談型展示会事業は、商談型展示会である「CareTEX」、商品ジャンル特化型展示商談会「CareTEX One」並びに商談型オンライン展示会「CareTEX 365 オンライン」の運営を行っております。

当第3四半期累計期間においては、4月に発出された緊急事態宣言中は営業活動を自粛していたものの、6月以降は徐々に営業活動を再開し、出展社である介護関連サプライヤーへの営業活動を進めてまいりました。

また、当初、4月から8月に予定していた商談型展示会の開催を、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、第4四半期会計期間に延期しておりましたが、9月に宮城県で当事業年度初となる展示会「CareTEX 仙台」を開催したのを皮切りに、展示会の開催を再開し、10月に横浜展、11月に大阪展を万全の感染予防対策を講じた上で開催いたしました。なお、商品ジャンル特化型の小規模な展示会である「CareTEX One」の一部につきましては、「収容人数制限」をはじめとする様々な展示会開催ガイドライン遵守の観点から、2022年3月期以降に開催を延期しております。

提出日現在において、新型コロナウイルス感染症の影響により、出展予定企業の一部に出展を自粛するケースが発生しておりますが、11月11日に「通期業績予想の修正に関するお知らせ」において公表した、修正後の通期業績予想の想定範囲内であり、業績予想どおり順調に推移しております。なお、今後開催予定の展示会につきまして、1月8日及び13日に緊急事態宣言が発出されましたが、1月14日に公表の「緊急事態宣言の発出に伴う、当社主催展示会の開催について」のとおり、当社は政府や自治体の要請及び各会場のガイドラインに従い、万全の感染予防対策を講じた上で開催するよう準備を進めております。また、商談型展示会の開催エリア拡大施策として、2021年5月に北海道で、「CareTEX 札幌」を開催することを決定いたしました。

〔展示会開催スケジュール〕

四半期	開催月	展示会名	開催
第1四半期	（開催予定の展示会を延期）		
第2四半期	7月 オンライン展示会（新サービス）開設		
	9月	CareTEX仙台	開催済
	10月	CareTEX One横浜	開催済
第3四半期	11月	CareTEX大阪	開催済
	12月	CareTEX One広島	来期以降に延期
第4四半期	1月	CareTEX名古屋	開催済
		CareTEX One静岡	来期以降に延期
	2月	CareTEX福岡	開催予定
	3月	東京ケアウィーク	開催予定

一方、新型コロナウイルス感染症の影響で介護事業者と介護関連サプライヤーとの商談機会が著しく不足している状況を解消し、効率的かつ安全に配慮した新たな商談・マッチング機会を提供するため、介護業界初の商談型オンライン展示会「CareTEX365 オンライン」を7月より開始いたしました。

「CareTEX365 オンライン」は、介護関連サプライヤーの新製品情報が一堂に集うオンライン出展ブースである「CareTEX365 ウェブス」、オンライン商談設定サービスである「CareTEX365 コネクト」、介護業界の最新情報を発信するオンラインセミナー「CareTEX365 ウェビナー」の3つのサービスから構成されており、マッチングの機会を必要とする介護事業者と介護関連サプライヤーから高い評価をいただいております。また、当社の展示会ノウハウを商談型オンライン展示会にも反映させるべく、当第3四半期会計期間に30,000千円の追加投資によりオンライン展示会プラットフォーム『ExpON（エキスポン）』を自社開発し、2月より「CareTEX365 オンライン」にて運用を開始いたします。さらに、健康施術業界においても効率的かつ安全に配慮した新たな商談・マッチングの機会を提供するため、3月に商談型オンライン展示会「からだケア EXPO オンライン」を開始することを決定いたしました。また、オンライン展示会事業を拡充するための人材の追加採用につきましても、計画どおり順調に進捗しております。

なお、「CareTEX365 オンライン」の各サービスにつきましては、商談型展示会のオンライン版と位置付けていることから、当該事業の業績は、商談型展示会事業のセグメントに含めて報告しております。

以上の結果、当第3四半期会計期間（3カ月間）における商談型展示会事業の売上高は146,037千円（前年同四半期比2.6%減）、セグメント利益は24,889千円（前年同四半期比9.0%減）となりました。

また、当第3四半期累計期間においては、商談型展示会事業の売上高は226,791千円（前年同四半期比36.1%減）、セグメント損失は75,406千円（前年同四半期は23,380千円の利益）となりました。

第3四半期会計期間（3カ月間）の経営成績（商談型展示会事業）

（単位：千円）

	前第3四半期 会計期間	当第3四半期 会計期間	増減額	増減率
売上高	149,956	146,037	△3,918	△2.6%
セグメント利益	27,338	24,889	△2,449	△9.0%

(ロ) M&A仲介事業

M&A仲介事業は、介護事業者及び医療事業者向けのM&A仲介サービスの提供を行っております。当該事業におきましては、ウェブサイトのコンテンツ充実やウェブ簡易査定機能の利用促進を図り、案件獲得を強化するとともに、案件の成約に注力いたしました。

4月に発出された緊急事態宣言中は、一部、案件の進捗に遅れが生じておりましたが、解除後は、案件の進捗が正常化するとともに、介護報酬改定や人材採用難に対する危機感の高まり等により、売り手・買い手双方からの問い合わせが活発化しております。また、前事業年度からの課題であったM&Aコンサルタントの教育体制の整備や仕組化が概ね完了したことにより、成約組数は大幅に増加し、当第3四半期累計期間において57組（前年同四半期比90.0%増）となりました。さらに当第3四半期会計期間において、M&Aコンサルタントを大幅に増員するための採用活動を実施しておりますが、計画どおり順調に進捗しております。

以上の結果、当第3四半期会計期間（3カ月間）においては、売上高は144,388千円（前年同四半期比74.3%増）、セグメント利益は98,285千円（前年同四半期比160.3%増）となりました。

また、当第3四半期累計期間においては、売上高は360,809千円（前年同四半期比48.6%増）、セグメント利益は221,393千円（前年同四半期比86.3%増）と大幅な増収増益となりました。

第3四半期会計期間（3カ月間）の経営成績（M&A仲介事業）

（単位：千円）

	前第3四半期 会計期間	当第3四半期 会計期間	増減額	増減率
売上高	82,826	144,388	+61,561	+74.3%
セグメント利益	37,753	98,285	+60,531	+160.3%

(ハ) その他

その他のうち、「CareTEX365 フード」（配食マッチングサービス）は、時期とエリアが限られる展示会の特徴を補完する形で、展示会以外の場所でも、ウェブや電話接客等を通じて、介護事業者と配食・介護食のサプライヤーをマッチングする事業です。また、「きざみ食」や「やわらか食」等の介護食を販売する、高

齢者施設向けのB to B通販サイトを通して、調理スタッフの高齢化や確保難等で人手不足に悩む介護事業者の課題解決を図っております。

また、海外事業に関して、高齢化が急激に進む中国市場へ早期に参入するため、当社は2018年11月に、中国に現地企業等との合弁会社を設立しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、今後の先行きが極めて不透明な状況となったため、2020年8月31日に合弁契約を解消いたしました。

以上の結果、当第3四半期会計期間（3カ月間）においては、その他の売上高は2,820千円（前年同四半期比94.3%減）、セグメント損失は2,264千円（前年同四半期は2,955千円の損失）となりました。

また、当第3四半期累計期間においては、その他の売上高は14,574千円（前年同四半期比91.7%減）、セグメント損失は5,309千円（前年同四半期は22,708千円の損失）となりました。

第3四半期会計期間（3カ月間）の経営成績（その他）（\*3）

（単位：千円）

	前第3四半期 会計期間	当第3四半期 会計期間	増減額	増減率
売上高	49,841	2,820	△47,020	△94.3%
セグメント損失 (△)	△2,955	△2,264	+691	—

(\*1) 介護用品メーカー、機械浴槽や建材等の設備備品メーカー及び介護ソフトや配食等の施設向けサービス事業者等

(\*2) 「C a r e T E X」のうち東京展については、「C a r e T E X 東京」「次世代介護テクノロジー展」「超高齢社会のまちづくり展」「在宅医療 総合展」「介護予防 総合展」「健康施術産業展」の6つの専門展により構成される「東京ケアウィーク」の総称にて開催。

(\*3) 「その他」の前年同四半期実績には、B t o C 事業（介護用品等のインターネット通販事業）の業績が含まれておりますが、当該事業を2020年3月31日付で譲渡したため、前事業年度末に生じた一部の受注残を除き、当第3四半期会計期間には、当該事業の業績は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末の総資産は1,577,589千円となり、前事業年度末に比べて319,021千円の増加となりました。流動資産は1,409,172千円となり、前事業年度末に比べて305,400千円増加しました。主な要因は、短期借入金の増加に伴う現金及び預金の増加等によるものであります。固定資産は168,417千円となり、前事業年度末に比べて13,621千円増加しました。主な要因は、自社システム開発に伴う無形固定資産の計上によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は863,330千円となり、前事業年度末に比べて413,861千円の増加となりました。流動負債は757,830千円となり、前事業年度末に比べて318,361千円の増加となりました。主な要因は、法人税等の納付に伴い未払法人税等が減少した一方で、短期借入金が増加したこと等によるものであります。固定負債は105,500千円となり、前事業年度末に比べて95,500千円の増加となりました。主な要因は、長期借入金の借入によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は714,259千円となり、前事業年度末に比べて94,840千円の減少となりました。主な要因は、四半期純損失の計上により繰越利益剰余金が減少したことや自己株式の取得等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

商談型展示会の中で、全出展小間数(\*)の約5割を占める「東京ケアウィーク'21」が3月開催のため、今期につきましても、商談型展示会の売上が、第4四半期に偏重する見通しです。また、M&A仲介事業及び商談型展示会事業のいずれの事業においても、修正後の通期業績予想に対して順調に進捗しております。

一方で、1月8日及び13日には日本政府より緊急事態宣言が発出されましたが、当社においては、1月14日に公表の「緊急事態宣言の発出に伴う、当社主催展示会の開催について」のとおり、万全の感染予防対策を講じた上で、商談型展示会を開催してまいります。

提出日現在、緊急事態宣言が3月7日まで延長されておりますが、今後さらに状況が悪化し展示会の中止要請等が出された場合には、業績予想の見直しを実施する可能性があります。

(\*)出展小間数：出展社に貸し出すために仕切られたスペースの単位



2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (2020年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,051,416	1,318,939
預け金	—	423
売掛金	27,751	19,845
前渡金	6,792	8,743
前払費用	17,731	18,507
その他	79	42,713
流動資産合計	1,103,772	1,409,172
固定資産		
有形固定資産	59,528	56,863
無形固定資産	2,920	19,569
投資その他の資産		
関係会社出資金	7,575	—
その他	84,771	91,985
投資その他の資産合計	92,347	91,985
固定資産合計	154,796	168,417
資産合計	1,258,568	1,577,589
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	11,685	40
短期借入金	—	300,000
1年内返済予定の長期借入金	18,983	6,000
未払法人税等	68,314	—
未払金	49,293	30,133
未払費用	18,944	25,926
前受金	207,262	329,397
賞与引当金	60,963	56,239
その他	4,021	10,092
流動負債合計	439,468	757,830
固定負債		
長期借入金	10,000	105,500
固定負債合計	10,000	105,500
負債合計	449,468	863,330
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	259,925	261,210
資本剰余金	187,925	189,210
利益剰余金	355,863	332,403
自己株式	△108	△71,019
株主資本合計	803,607	711,805
新株予約権	5,492	2,453
純資産合計	809,099	714,259
負債純資産合計	1,258,568	1,577,589

(2) 四半期損益計算書  
 (第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	774,523	602,174
売上原価	239,350	64,858
売上総利益	535,173	537,315
販売費及び一般管理費	623,750	582,996
営業損失(△)	△88,577	△45,680
営業外収益		
受取利息及び配当金	4	5
助成金収入	1,771	11,535
その他	182	527
営業外収益合計	1,957	12,067
営業外費用		
支払利息	211	745
その他	210	—
営業外費用合計	421	745
経常損失(△)	△87,041	△34,358
特別利益		
新株予約権戻入益	6	3,039
特別利益合計	6	3,039
特別損失		
関係会社株式売却損	—	537
特別損失合計	—	537
税引前四半期純損失(△)	△87,035	△31,856
法人税、住民税及び事業税	397	397
法人税等調整額	△21,875	△8,794
法人税等合計	△21,477	△8,396
四半期純損失(△)	△65,557	△23,460

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について)

当社は、前事業年度の有価証券報告書の追加情報に記載した新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する仮定について、新型コロナウイルス感染症は第1四半期会計期間末までに概ね収束し、第2四半期会計期間以降は業務運営が正常化することを前提としておりました。しかしながら、1月8日及び13日に緊急事態宣言が発出されたこと等から、当事業年度中は新型コロナウイルス感染症の影響が継続するものと仮定を変更しております。このような中、M&A仲介事業においては、感染症の影響は一時的なものに留まり、今後も業績が順調に進捗する見込みです。一方、商談型展示会事業においては、予定どおり展示会を開催してまいります。新型コロナウイルス感染症の影響により、出展予定企業の一部に出展を自粛するケースが発生しており、今後、さらに状況が悪化した場合には、業績に影響を与える可能性があります。これらを前提に、当事業年度の財務諸表における会計上の見積りに影響を与えると想定される繰延税金資産の回収可能性及び固定資産の減損について評価を実施しました。この結果、当事業年度の財務諸表における影響額は僅少であると算定しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

当社は、2020年3月23日及び2020年5月13日開催の取締役会決議に基づく自己株式の取得等により、当第3四半期累計期間において自己株式が70,911千円増加し、当第3四半期会計期間末において自己株式が71,019千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上額 (注) 3
	商談型展示会 事業	M&A仲介 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	355,150	242,843	597,994	176,529	774,523	—	774,523
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	355,150	242,843	597,994	176,529	774,523	—	774,523
セグメント利益又は 損失(△)	23,380	118,848	142,229	△22,708	119,521	△208,098	△88,577

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、EC事業、新規事業及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△208,098千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは、本社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期損益 計算書計上額 (注) 3
	商談型展示会 事業	M&A仲介 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	226,791	360,809	587,600	14,574	602,174	—	602,174
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	226,791	360,809	587,600	14,574	602,174	—	602,174
セグメント利益又は 損失(△)	△75,406	221,393	145,986	△5,309	140,677	△186,357	△45,680

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、新規事業及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△186,357千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは、本社の管理部門に係る費用であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期会計期間より、報告セグメントにつきまして、「BtoB事業」を「商談型展示会事業」及び「M&A仲介事業」の2区分に変更しております。また、報告セグメントに含まれていた「BtoC事業」及び「新規事業」につきましては、「その他」の区分に変更しております。

なお、前第3四半期累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。